

日本原子力産業会議

昭和62年10月吉日

専務理事

森 一久 殿

東京都中央区銀座5-10-13

株式会社 電力新報社

TEL 03(572) 6871(代)

謹啓

時下、ますますご清栄のほど、お慶び申し上げます。平素から格別のお引立を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では「エネルギーフォーラム」新年号企画としまして、有識者の皆様へのアンケートを通じて、21世紀へ向けて電力、都市ガス、石油といったエネルギー企業・産業にどのような注文があるかを提起していただくことになりました。つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、下記の要領にて玉稿を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

字数／400字程度、顔写真を付けてください。

締切り／11月24日（火）弊社着 <担当：岡田>

尚、この度お願いした方々は次ぎのとおりです。（順不同、敬称略）

吉田直哉（NHKディレクター）、勝部領樹（NHK記者）、大熊由紀子（朝日新聞論説委員）、河村有弘（日経ビジネス編集長）、竹内均（ニュートン編集長）、今井賢一（一橋大教授）、高橋毅夫（新潟大教授）、近藤駿介（東京大教授）、西沢潤一（東北大教授）、吉田光邦（京都大教授）、空田泰弘（埼玉大助教授）、工藤芳郎（消団連代表幹事）、高田ユリ（主婦連副会長）、後藤茂（前衆議院議員）、伏見康治（参議院議員）、渡部恒三（衆議院議員）、ジェームス三木（脚本家）、清家清（建築家）、木元教子（タレント）、大前研一（マッキンゼー日本支社長）、林雄二郎（未来工研副理事長）、石ノ森章太郎（漫画家）、森一久（原産会議専務理事）、諸井虔（秩父セメント会長）、牛尾治郎（ウシオ電機会長）、関本忠弘（日本電気社長）、小倉昌男（ヤマト運輸会長）

早は立回さん

次世記への橋相心

森一

人間は周囲の存在を次々と対象化することによって、今日の高度な特殊技術文明を築いてきた。しかしエネルギーというものは、おそうく人（は）間認識の態様から、いかなる対象化が不可能なものであり、このことは過去、現在、諸予測が、短期的局所的な場合を除き、きわめて不確実・不確実でありつづけたことに、端的にあつてゐる。ただ確実なことは、いかなる種類のエネルギーも消費というものの~~消費~~も

結ぶ

多分ちりとも宇宙・地球の衰退に手を加えること

とに成るといふ厳密な事実である。

と云ふエネルギー産業はそのようなものを

委託されたエネルギーの富い、文字通りの利益事業

である。当面ベストミックスや多角化で企業

の効率向上に励むのはいいとしても、次々

年を展望するならば、世界の資源と環境の損

耗を補償するような本格的な手段を立てるか、

日本の場合、資源国との長期的な関係、単なる

売り買いでいけるか、等々、知恵を絞る

等々、知恵を絞る

リ、
 できることか
 う
 いの
 ではないか
 ま
 た
 そ
 の
 へ
 へ
 の
 エ
 ネ
 ィ
 産業が
 力を
 合
 わ
 す
 た
 め
 の
 体
 制
 づ
 く
 も
 必
 要
 だ
 ろ
 う

人
X